

# わかやま



2000年10月

和歌山県精神保健福祉センターだより

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319

和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

電話(073)435-5194 FAX(073)435-5193

## 「和歌山県精神保健福祉協会長に就任して」

日本精神科看護技術協会和歌山県支部長 西本 香代子

和歌山県精神保健福祉協会の会長篠田先生が辞任されましたのでその後を引き継がせていただくことになりました。

和歌山県ではもとより、全国において看護職の立場からの就任は、はじめてではないかと思えます。大変な重責を担ったことになり、私の力量に適うのか、少なからず不安な気持ちを抱いています。

会長就任までの成り行きはさておいて、お引き受けした私自身の動機は、協会事務局と話し合っていた中で、障害者の方と日常共に身近にある看護職は、障害者の悩み、望んでいることを伝えられる近い立場にあるのではないかと、そして、障害者の視点に立った活動を協会事務局のスタッフと進めていけそうな予感がしたからです。

安易な動機のように聞こえるかもしれませんが、私にとっては大切な援助の原点です。

さらに、もう一つの点として精神保健福祉の分野は、一般県民への普及、理解は今1つ進んでいないのが現状ではないでしょうか。

法律や受け皿となる入れ物の整備は進んできてはいます。しかし社会復帰していく障害者は地域で生活するにあたり、支え手の理解や手立てを満足には受けているとは言いきれません。地域の住民、関係者の支えは必要不可欠だと考えます。

肝心なことは、県民への啓発活動を積極的に進めていくことにあります。

近年、社会が複雑になっていく人間関係からくるストレス、不景気による中高年の自殺、震災、毒物事件などによるPTSD、こうした心の問題について国民の関心は高くなっています。とりわけ、昨今青少年の起こしている問題は深刻に考える必要があります。

こうしたことも踏まえて、県民への啓発活動は障害者の精神保健福祉活動の一環のみでなく県民全体のメンタルヘルスの問題として取り組むことが要請されているのではないのでしょうか。この考えに立ったイベント的な活動も見られますが、自分たちにも身近に起こりうる心の問題であると、県民に認識してもらうには、月並みな表現ですが、草の根的な活動方法も必要でないかと感じています。

和歌山県精神保健福祉協会の会則を改めて読みますと、(目的)第3条 本会は、県民の精神保健福祉に関する知識の啓発に努め、精神的健康の保持推進を図るとともに、精神障害の発生予防及び精神障害者の円滑な社会復帰の促進等に努めることをもって目的とするとあります。また、(会員)第5条 本会の会員は、本会の目的に賛同した個人、並びに団体とします。とありますから、上記の3条の目的に賛同してくださる一般県民、団体も会員になってもらい、共に活動ができれば、それこそ障害者の方への理解も深まり、地域の支え手となってくれるのではないのでしょうか。

会長就任にあたり、僭越ですが私の感じたことと、意見など率直に述べさせていただきます。微力ながら協会事務局と共に活動を進めていく所存ですので、皆様方のご協力、ご指導の程よろしくお願いいたします。

## 今回は海南・海草地域です！！

### 海南・海草地域の精神保健福祉を取り巻く現状

当保健所は、昭和19年10月海南市黒江に開設され、3度目の移転で昭和62年4月から現在の海南市大野中の庁舎で海南市及び海草郡3町（下津、野上、美里）を管轄（管内人口約7万5千人）しています。また、平成9年4月に、海草福祉事務所が当所に移転し、他の振興局より一足先に、保健・医療・福祉部門の連携強化を図ってきました。

さらに、本年4月には福祉事務所と保健所業務の一体的な推進を図るため、精神保健福祉の業務が、海草振興局 健康福祉部 生活福祉課に再編され、精神障害者、身体障害者、知的障害者に対するサービスが一元的に行われるようになりました。

それでは、精神保健福祉関係の事業を平成11年度の実績を踏まえて紹介します。

#### 1 こころの健康相談

保健所嘱託の精神科医師により毎月3回予約制で実施しています  
(いずれも午後1時半から)

- 1) 第1水曜 管内の公立総合病院精神科医師による
- 2) 第3金曜 近くの精神科病院（ベッド264床）医師による
- 3) 第4金曜 アルコール症専門精神科医師による  
(平成11年度 実55人・延76人)



精神保健福祉相談員や保健婦の相談は随時受け付けています。

- ・定期外の相談（精神障害者作業所健康相談を含む）  
(平成11年度 実66人・延335人)

- ・訪問指導 随時実施

県内の保健所で最も多い保健福祉手帳の所持者を対象に、担当保健婦、精神保健福祉相談員が、より病気への理解を深めてもらうため訪問して、家族会の案内やデイケア教室参加へのアプローチを行っています。また、管内2ヶ所の精神作業所に毎月1回訪問して、血圧測定など健康相談を行っています。

(平成11年度 実110人・延276人)

#### 2 精神デイケア教室（たんぽぽ会）

毎月2回（第1・3火曜）実施 (平成11年度 実44人・延305人)

#### 3 家族支援

- 1) 家族会（紙ふうせん）の育成支援

例会月1回実施（保健所にて） 毎月最終月曜午後 会員27家族

- 2) 精神障害者家族教室

年4回実施 (平成11年度 57人)

\*それぞれの事業説明は、前回の高野口保健所とほぼ同じなので省略させていただきました。

#### 4 海南・海草地域の特徴

管内には、精神科を有する公立総合病院が、野上町にあり、住民の精神医療を担っています。精神科（ベッド100床）には、3人の医師（うち指定医2人）が常勤しており、月～金の午前の診察に限らず午後も気軽に相談に応じてもらえます。訪問看護、外来デイケアも平成11年度から始まっており（月～金）、保健所と市町との連携のもとで、管内のほとんどの精神障害者に関わって、緻密なサービスを提供してくれているのが特徴です。

平成4年に発足した海南海草地区精神障害者家族会「紙ふうせん」は、現和歌山県家族会連合会会長と共に家族会活動を展開してきております。海南市では、保健福祉手帳を持っているとどこの医療機関で受診しても治療費が公的負担になる（もちろん入院医療費も）という全国一の手帳制度を確立してきました。また、その「紙ふうせん」が母体になって、平成6年には、家族の念願であった共同作業所「海南ワーク」が開所され、従来からの知的障害者の「ひかり作業所」（平成11年度から精神障害者作業所として運営）と共に、地域の重要な社会復帰施設として発展してきています。

今年度は、各市町から一般住民の方を対象にした精神保健ボランティア講座を開催し、地域の人に幅広く精神障害者の病気を理解してもらう計画をしております。さらに、各市町の単位でそれぞれの基盤になる家族会が確立されていくように各市町と連携を深めて行きたいと思っています。

管内の病院・家族会・作業所・市町・保健所等の関係機関がうまく連携をとりあって、地域生活支援センターが設立されるように努力しているところです。

海南・海草地区の応援よろしく申し上げます。



## 研修会の報告

**精神障害者訪問介護員（ヘルパー）講習会**は8月5日と8月8・9・10日（このうち1日）の2日間ありました。

終了された計31名に修了証が交付されました。終了されたのは、11市町村2社会福祉法人でした。多くの研修項目があり、とてもハードな2日間でしたが、最後のディスカッションまで熱心に意見の交換がありました。しかし、満足感が得にくかった・実際出来るかどうか自信がないとの感想もありました。そういう意見を参考に「ヘルパー通信」を修了者に発送し継続学習の機会にしていきたいと考えています。平成14年の開始に向けて修了者だけでなく広く学習していく機会を増やしていきたいと思っています。

**精神障害者介護支援専門員（ケアマネジャー）養成研修**は予定の2日間を終了し、残すところケアマネジメント試行事例の報告と問題の共有化及び質疑です。この研修は、3日間の修了者に修了証を交付予定です。今後は精神障害者ケアマネジメントを進めていく中心的役割を期待しています。

第3日目の研修は予定どおり11月6日（月）に京都府園部保健所の三品桂子精神保健福祉相談員をコーディネーターに開催します。

## 訃報

東 雄司先生（和歌山県立医科大学名誉教授）が10月10日に亡くなりました。12日には東先生を尊敬し慕う、多くの人達に見送られながら告別式が執り行われました。和歌山県のみでなく日本を代表する地域精神保健福祉活動をされていたことは、周知のことと思います。心よりご冥福をお祈りいたします。

## 関西アルコール関連問題学会のお知らせ

平成12年12月2日3日の両日、和歌山ビッグ愛におきまして『第9回関西アルコール連  
問題学会和歌山大会』が開催されます。テーマは「癒しの地、和歌山から～21世紀の新たな  
支援を探る」今大会が和歌山県で開催されるのは初めての事です。和歌山県はアルコール依  
存症者の支援においてはとても十分といえる状況にはありません。今大会の開催を契機にアル  
コール関連問題領域での関心が深まることを期待しています。

### プログラム

12月2日(土) 13:00～17:45

\*基礎講座

- \*分科会 「地域における初期介入と継続支援」  
「回復への援助～様々なステージからのアプローチ」  
「若年・思春期におけるアルコール関連問題」  
「看護～それぞれの立場より」  
「介入～一般病院と専門機関の連携から」

12月3日(日) 9:00～11:40

\*シンポジウム「アルコール依存と児童虐待」

今年2月福岡でアルコール依存症の母を中学生の息子が殺害した事件がありました。結果的  
に母親の飲酒問題と不適切な養育に関係者は有効な支援ができませんでした。このシンポジウ  
ムではシンポジストに当事者を迎え、児童福祉の側とアルコール医療の側が共通の認識を深め、  
寄りよい援助を気づけるきっかけになることをめざします。

シンポジストは神戸大学精神科医の田中究先生、東京都世田谷保健所保健婦の徳永雅子さん  
他、司会は済生会有田病院小児科医の紀平省悟先生です。アルコール関連機関だけでなく、精  
神保健福祉や児童福祉など広い分野からの参加をお待ちしています。

参加申し込み、お問い合わせ：大会事務局・県精神保健福祉センター 中川まで

### センターでの研修予定

市町村精神保健福祉担当者研修会 平成12年11月8日(水)・13日(月) 2日間

1日目

精神疾患の理解 県立五稜病院第1医長 生駒芳久医師  
精神保健福祉制度の概要 精神保健福祉センター 中川浩二精神保健福祉相談員  
精神障害者ケアマネージメント及びホームヘルプサービス試行的事業の経過報告  
やおき福祉会ハモニティ 坂本直史施設長

2日目

精神保健福祉の歴史 精神保健福祉センター 朝井 忠 所長  
精神障害者をもつ家族として一家族会活動をして得ていくもの一  
和歌山県精神障害者家族連合会 大島信雄 会長  
地域で活動する患者会 和歌山県精神障害者団体連合会 紀の国会  
地域での援助方法について 東牟婁振興局健康福祉部古座支所 前田治美 保健婦

### 編集後記

今回のセンター便りで、まる一年が過ぎました。編集技術もまだまだで、題字にインパ  
クトがない等たくさんのご意見をいただいております。検討を重ねながらこのペースで便  
りを発行していければと、何故か謙虚に考えている担当者でした。 編集長M